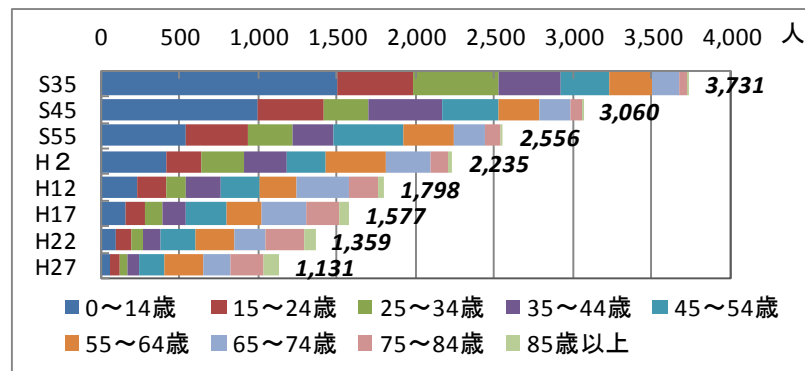


川前地区まちづくり計画

平成 30 年 7 月 川前町振興対策協議会（川前地区まちづくり計画検討委員会）

趣旨 この計画は、人口減少や少子・高齢化、産業の停滞など厳しい環境にあるいわき市川前地区において、地区住民が自ら今後のまちづくりについて考え、その方向性とそれに向けて行うべきことを、行政との協働作業によりとりまとめたものである。
計画策定にあたっては、川前町振興対策協議会の中に「まちづくり計画検討委員会」を設け、ワークショップで検討を重ね、アイデアや意見を出し合い、集約・整理してとりまとめた。

[川前地区年齢別人口構成の推移]



資料:「いわき市内地域別データファイル」、国勢調査



ワークショップ



いわきの里鬼ヶ城(ききり荘)

まちづくりの基本理念

「川前人」として・・・

- ☞ 元気に笑顔であいさつをしよう
- ☞ 川前の中・外でセールスマンとして川前自慢をしよう
- ☞ 川前の資源を愛し、使い続けよう
- ☞ 川前の魂を未来につなげよう

川前地区のまちづくりは、川前・桶売・小白井という3つの地区ごとに考えるのではなく、ひとつの町としてまとめることが基本である。そのため住民全員が「川前人」として川前町全体を大きな視点で見直すことが重要である。

過疎化、少子高齢化の問題は確かに深刻ではある。しかし、川前町に住む自分たちが情熱を持たずに誰が持つのだろう。悲観的な意見や冷静で第三者的な一般論はまわりに任せて、「川前人」である私たちは元気と誇りを持って、川前で笑い、川前を自慢し、川前を生かして、「川前人」の魂を守り育み、国籍・性別・年齢関係なくだれでも楽しく安心して生活できる、元気ある川前町を創ろう、取り戻そう。

目標（スローガン）

みんなでつくる 川前共わ国

- ◎ 人の和、
地区内外の輪、
資源・価値の環
- ◎ 誇りの里、
永遠のふるさと

この目標（スローガン）は、基本理念のもとで、「川前人」全員の意思としてまちづくりを進めていくという意味で設定したものである。

集落維持、活性化のためにも「川前人」として一つになる人の「和」、隣組や隣接する市町村など地区内外の人々や地域との結びつきを強くする「輪」、川前町の資源や価値を循環させる「環」の3つの「わ」を盛り込んだ。

また、これまで先人たちが遺してきたこの川前町の歴史や伝統と豊かな自然に誇りを持ち、永く未来の子孫たちにつないでいきたい。ふるさとに帰りたくなるような、ふと訪れたいような、もう一度来たいような、そんな川前町にしたい。いつまでも心のふるさとであり、更には第二のふるさととってもらえるような素敵な川前町にしたい。そういった想いをこのスローガンに込めた。

地域の課題を「誰か」がやってくれる、ではなく「みんな」で話し合い、共有し、自分たちで出来ることを考える。決してやらされるのではなく、自ら取り組もう！。そして人を増やし、川前共わ国の「わ」を大きくしていこう！

カムバック川前人！ ウェルカム川前！

川前地区の「資源」

- 山や川や空という自然環境やそこに生息する動植物、景観、気候などは地区の誇りである。
- 野菜や果樹、山菜、その加工品である漬物、そば、きじなどが産業面の主な資源である。
- いわきの里鬼ヶ城は地区最大の集客・観光拠点で、施設が充実している。
- 鉄道駅があることや風力発電施設などが有力な施設資源である。
- 鬼ヶ城太鼓やじゃんがら念仏踊り、浦安の舞をはじめとする伝統芸能、寺社などの文化資源も息づいている。
- 住む人の人情、それに支えられたコミュニティは大きな人的資源である。
- 休耕地や空き家なども見かたによっては様々な可能性を秘める。

川前地区の「問題点」

- 人口減少と少子高齢化の進行による活力の低下が最大の問題で、あきらめ感も蔓延しがちである。
- 産業面でも、職場の少なさとともに人材資源の不足がネックとなっている。
- 道路など交通の便の悪さや通信インフラの立ち遅れが日常生活の大きな障害である。
- 医療・介護施設がなく、商業施設も少ないことが、生活の不便・不安を助長している。
- 小野、田村方面とのつながりも必ずしも十分とはいえない。
- 地域構造が3つのエリアに分散しており、中心地が不鮮明で行き来も大変である。
- 市役所支所の老朽化や、災害への不安が大きな問題である。
- 人口減少による農地や山林の荒廃、空家の増加、獣害の発生などの問題もある。

活かす

克服する

川前地区の課題

人・コミュニティ	住む人が「川前人」としての誇りを持ち、知恵と力を集めることが必要。 →そして、何よりも川前に暮らす人を一人でも増やすこと。
つながり・交流	人のつながり、ネットワークを宝として、交流を広げることが必要。 →川前に心を寄せる「交流人口」を増やしていくこと。
産業・しごと	地区の資源を活かした新しい産業・雇用の場を生み出していくことが必要。 →地域の存立のための経済基盤を強くしていくこと。
自然環境	豊かで誇り得る自然環境の保全と最大限の活用が必要。 →あたりまえにある自然を「宝の山」に変えながら後世に伝えること。
生活の基盤	生活の基盤となるインフラやサービスの確保・充実を進めることが必要。 →ここで安心して暮らし、人も呼べる条件となる利便を確保していくこと。
いわきの里鬼ヶ城	いわきの里鬼ヶ城を地域の拠点、交流拠点として一層活用することが必要。 →川前最大の産業・交流の中心拠点として存在価値を向上・発揮させること。
地域の拠点	川前支所をはじめ生活の中心機能を充実させることが必要。 →川前の総合的な拠点となる安心・安全な施設の機能を形成すること。

目標（スローガン）：
みんなで作る 川前共々国



まちづくりの「課題」
人・コミュニティ
つながり・交流
産業・しごと
自然環境
生活の基盤
いわきの里 鬼ヶ城
地域の拠点

まちづくりのテーマ (まちづくり方策の「柱」)
I. 人・コミュニティを育てる
II. 産業・しごとをつくる
III. 自然を守り、交流する
IV. 生活の基盤を整える
V. 地域の拠点をつくる
V-a いわきの里鬼ヶ城
V-b 生活・行政拠点施設

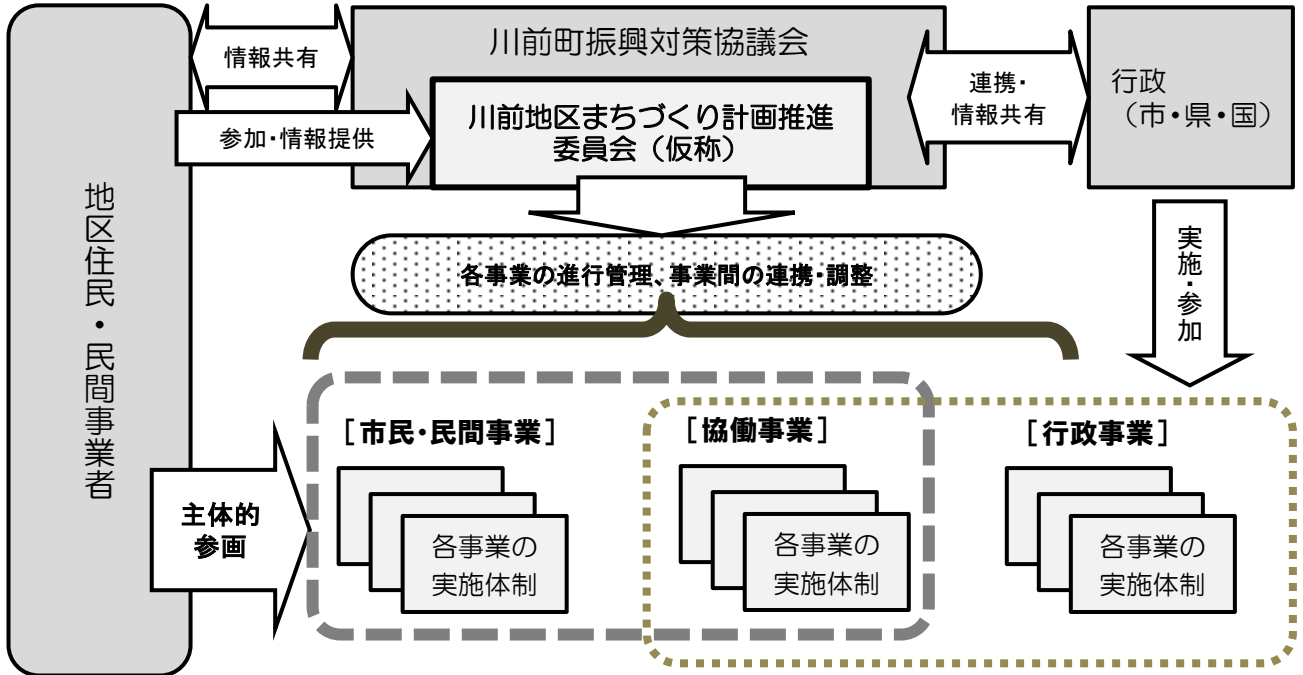
基本理念：「川前人」として・・・

まちづくり計画（計画項目名一覧）
<p>■ I. 人・コミュニティを育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニティの輪づくり ☆ (2) コミュニティ組織づくり ☆ (3) 高齢者の見守り強化 (4) 川前人の意識改革 (5) 川前人教育・養成 ☆ (6) まちづくり人材の確保 ☆ (7) 伝統文化の継承 (8) 文化・交流イベント ☆ (9) 情報の発信・共有
<p>■ II. 産業・しごとをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 新しい共生型農業の展開 ☆ (2) 川前ブランド商品づくり ☆ (3) 6次化商品の販売 (4) 観光の盛り上げ (5) 多様な産業づくりへの挑戦
<p>■ III. 自然を守り、交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自然の保全と活用 (2) 山里の景観向上 (3) 花のまちづくり (4) 体験交流の展開 (5) 交流イベントの開催 ☆
<p>■ IV. 生活の基盤を整える</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 道路環境の改善・整備 ☆ (2) 地域の公共交通システムの確保 (3) 情報通信基盤の整備 ☆ (4) 医療・福祉環境の充実 (5) 衛生環境の向上 (6) 買い物等の利便の確保 ☆ (7) 新技術の生活基盤への活用 (8) 必要な生活基盤事業の確保 ☆
<p>■ V. 地域の拠点をつくる</p> <p>V-a いわきの里鬼ヶ城</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 住民参加による運営・サービス ☆ (2) 集客のための行動・運営 ☆ (3) 情報・話題の発信 (4) 施設機能の拡充 (5) 保健・福祉・介護機能の導入 <p>V-b 生活・行政拠点施設</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 支所のありかた検討 (2) 生活拠点機能の複合化

重点プロジェクト	
特に重点的、優先的に実施することで、他への波及効果も大きく、目標達成への全体の動きを先導する役割を果たし得るものを選定	
プロジェクト名	主な内容
A) まちづくり人材の確保・育成 < I-(1) (2) (5) (6) >	1 「川前人」としてのコミュニティづくり ① 既存組織の見直しと再構築 ② 意見の交換、集約の仕組みづくり 2 まちづくりのキーマンとなる人材の確保と育成 ① 地区の伝統文化の継承 ② 誇りを持ち、町のために活動する意識づくり
B) 生活基盤の整備 < IV-(1) (3) (6) (8) >	1 川前～桶売～小白井の南北軸道路整備の推進活動 2 高速通信の整備促進活動 3 携帯電話不感地域解消に向けた活動 4 買物代行、宅配サービス、移動販売などによる利便性の確保 5 生活に不可欠な施設・団体等の維持と拡充
C) 鬼ヶ城と地元の協力関係強化 < V-a-(1) (2) >	1 地域拠点としての鬼ヶ城の利用促進 2 住民が顧客側・運営側両方の立場から考え、意見や意向を反映させる形での協力関係の構築 3 住民参加型の農産物加工施設の設置による6次産業拠点としての活用と運営
D) 新しい共生型農業の展開 < II-(1) (2) >	1 農業会社、加工会社設立による生産、加工、販売の集約組織化 2 地区内作物や加工物の付加価値を向上させた「川前ブランド」の開発 3 休耕地活用への組織的取り組みとマンパワーの確保
E) 交流イベントの開催 < I-(8)、III-(5) >	1 地元住民同士での交流を目的とするイベント開催 2 地区内外の交流を目的とする川前の自然・文化資源を活かしたイベントの開催

計画を推進するための体制

(計画全体のコントロール、進行管理を行う推進体制)



地区住民や民間事業者は、市民・民間が主体となるべき方策・事業や協働事業に積極的に参画し、また、有志が「推進委員会」に参加することで、計画の目標実現に向けた地元の意思の反映を図る。